

G-20、世界経済危機への対策の継続並びに IMF 代表権の変更を支持



IMF サーベイ・オンライン
2009年9月25日

サミットのロゴ：G20 各国首脳は、世界経済危機への協調的対応により、国際協力の利点が明確になったと述べた。(写真: Win McNamee/CNP)

- G20、世界は依然として危機からの回復・修復段階にあると認識
- IMF の代表権の少なくとも 5% の移行を支持
- 均衡の取れた持続可能な高成長の実現に向けた枠組みの構築に合意

先進並びに新興市場 20 カ国グループ (G20) は、ピッツバーグで開催されたサミットで、世界経済危機に対し今後も断固とした政策対応を継続することを確認すると共に、活発な経済活動を見せる新興市場並びに途上国へ、IMF 加盟国の代表権を少なくとも 5% 移行させることに政治的支持を表明した。

声明の中で各国首脳は、危機に対する強力な政策措置を講じたことにより、危険を伴う世界経済の急減速が抑止され、金融市場の安定化が促進したと述べた。鉱工業生産はほぼ全ての国で上昇を見せており、国際貿易は回復を示し始めている。各国首脳は、世界経済は来年末までに約 3% 成長すると予測した IMF の分析を引用した。

G20 首脳は 9 月 25 日、G20 を「世界の経済協力の主要な議論の場とする」点で合意したことを明らかにした。同時に国際金融システムの規制の強化への継続した取り組み、危険な行為が横行する市場慣行からの消費者・預金者・投資家の保護、家計並びに企業への融資の再開の促進についても合意に至ったと説明した。また G20 首脳は IMF に対し、各国・各地域の政策枠組みの協調のあり方についての分析にあたり、G20 へ支援を行うことを求めた。

同時に、G20 各国は世界の最貧国に関し「開発ギャップの削減に向けた措置は、世界経済の成長の効果的な原動力となり得る」としてそのコミットメントを強調した。

ドミニク・ストロスカール IMF 専務理事は、G20 の IMF への継続的な支援を歓迎するとともに、2011 年 1 月までに IMF クォータ（出資割当額）について合意に達するとしてロンドン・サミットのイニシアチブについて G20 が再度確認したと述べた。さらに同専務理事は「2008 年 4 月に承認されたクォータとボイス（投票権）の改革は、世界の新興市場並びに途上国の発言権及び代表権の改善に向けた第一のステップであった。G20 は本日、IMF 加盟国の最貧国の議決権を保護すると共に、活発な

経済活動を見せる新興市場並びに途上国へクォータのシェアを移行することを、コミットメントとして掲げた。クォータのシェアが過大評価されている国々から、過小評価されている国々へ少なくとも5%移行させることになる。これは大変大きな意味をもつ。G20 を世界経済をめぐる協力の主要な枠組みとする認識の共有と共に、この度の歴史的な決断は、世界経済政策における新興市場並びに途上国と先進国との、より深いパートナーシップの基礎となるだろう」と述べた。

コミットメントの履行

G20 首脳は、IMF の世界経済危機の対策のための財源を3倍とするとしたコミットメントを履行したと述べた。「このコミットメント及び、IMF の資金を効果的・柔軟に活用するため新規のファシリティを設立するなど IMF が採った革新的な措置により、世界的なリスクが減少した。資本は再び新興市場国に流れている」



G20 各国首脳は、経済危機に対する協調的な対応の結果、国際協力の利点のみならず、IMF がより正当でかつ実効的であることの必要性が明確になったと述べた。「IMF は世界の金融の安定化と成長のバランス回復の促進において、重要な役割を果たすことが求められる。我々は、革新的な [フレキシブル・クレジットライン](#) の設立を始めとする IMF の融資制度の改革を歓迎する」

IMF は、資本の流れの急変による経済的混乱を削減しまた、過度の外貨準備金の蓄積が必要とする認識を減らすなど、金融市場の変動に対処する加盟国への支援能力の強化に引き続き尽力することが求められる。「回復が確実になるにつれ、世界経済と国際金融システムが直面する危機に対する、公平で、率直、そして独立したサーベイランスを行う IMF の能力の強化に、我々は協力して取り組まなければならない」

また G20 は、新たに立ち上げた「強固で持続可能かつ均衡ある成長のための枠組み」の下での取り組みについて IMF に対し、各国の政策枠組み及び、金融の安定と世界の経済成長の度合い・パターンに対するその影響についてサーベイランスを実施、協力することを要請した。また IMF の財源基盤をより強固にし、[特別引出権 \(SDRs\)](#) の配分を通して世界の流動性を改善すると共に、低所得国への支援を拡大するとして IMF の一連の活動を歓迎した。

- **より強固な財源基盤** G20 は IMF の緊急融資を支えるとして、拡大された [新規借入取極 \(NAB\)](#) へ 5,000 億ドル超をコミットしている。

- **SDR 配分.** IMF は合計で **2,830 億ドル相当の SDR の配分** を行った。この内 1,000 億ドル超が新興市場並びに途上国の既存の外貨準備高を積み増すことになる。
- **低所得国支援.** 合意された IMF が保有する金の売却は IMF の新規歳入モデルと整合的である。この金の売却から得た資金及び、IMF 内・外部の資金を合わせると IMF の中期的な譲許的融資能力は 2 倍以上へと拡大することになる。

IMF ガバナンス改革の象徴的事例

G20 は IMF のガバナンスの現代化は、IMF の信頼性、正当性、そして実効性の向上への取り組みの中核をなすものだと述べた。「我々は IMF は今後もクォータを基盤とした組織であり、またクォータの配分は世界経済での各国の相対的規模を反映したものであるべきだと考える。しかし各国経済の相対的規模は、活発な経済活動をみせる新興市場並びに途上国の著しい成長を背景に大きく変化している」

G20 とは?

G20 は、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、メキシコ、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、韓国、トルコ、英国、米国、そして、EU により構成されている。また **世界経済の議論の場・組織** が確実に連携するために、IMF の専務理事と世界銀行の総裁、さらに国際通貨金融委員会 (IMFC) および IMF ・世銀開発委員会の議長もその職権を鑑み G20 会議に参加する。G20 参加国は、合計で世界 GNP の約 90%、世界人口の 3 分の 2 を占める。

また G20 首脳は「活発な経済活動を見せる新興市場並びに途上国へ **クォータのシェア** を移行する。作業の第一段階として、**現行のクォータ計算式** を活用して、クォータのシェアが過大評価されている国々から、過小評価されている国々へ少なくとも 5% 移行させる」ことに **支持を表明** した。また各国首脳は IMF 加盟国の最貧国の議決権シェアの維持に向けたコミットメントを強調した。

現在クォータのシェアは、先進国が 60%、新興市場並びに途上国が 40% となっている。

G20 首脳は、IMF のクォータの見直しの成功に向け作業の迅速化を強く求めた。

またクォータの見直しに関連し、以下に示す重要な課題の解決が必要との認識を共有した：

- IMF クォータの増加の規模－クォータの持分の変化に影響を及ぼす
- 理事会の構成メンバー及び規模とその実効性の向上の方策
- IMF の総務の戦略的な監督への関与
- IMF スタッフの多様性の向上

包括的改革の一環として、全ての国際機関の長ならびに上級管理職については、透明で開かれた実力本位の選任プロセスを通して任命する。

本稿へのご意見は、imfsurvey@imf.org まで。

本稿は、www.imf.org/imfsurvey の記事を翻訳したものである。